



ソーシャル・メディア



オジサンって何歳からですか？男女 1500 人に生活統合研究所が尋ねました。回答結果の平均値は 43 歳ということ。グラフを見ると確かに 43 歳付近に山があり 60 代や 20 代など上下に離れるほど低い。これが世間の常識かと、40 代半ばの男性はさびしく思うかもしれない。これと対照的なグラフを描いた質問があります。『日本の人口は約 1 億 3 千万人ですが、このうち何人以上の意見なら世論といえますか』という問いです。平均値は 4,342 万人です。しかし、結果は見事にバラバラでグラフには山がありません。回答者の 11%が 1 億人以上、8%が 5 千人未満の数字を挙げ、一人と答えた強気の人もいた。みんなそう言っているぞ。みんな持っているんだから。私たちが口にする『みんな』とはなにか。そんな問題意識からあれこれ調べた結果の一部だそうです。もう大衆などいない。これからは個人の時代だ。そう言われて久しいですが、実はネット上のソーシャルメディアを舞台に新たな『みんな』意識が生まれつつあるといます。自分の好みに合う意見ばかり表示されたり、たけだけしい投稿が目立ったり。少数者を『みんな』だと感じやすいのがソーシャルメディアです。そこで育つ過激なネット世論は時に社会を分断し、選挙も動かす。偽ニュース問題で揺れる米フェイスブックの好決算が伝えられた。巨人たちのもたらす影もきちんと見極めなければいけない。

都商会 鎌野



情けは人のためならず



最近思うのは、世の中がどんどんと住みにくくなっているな—ということ。昔なら笑い話で済んだようなことも、今では訴えられかねない。ギスギスとした世の中に、日本はなりつつあります。かくいう私も先日クレームを入れてしまい、少々反省しています。次男の引っ越しの際に 24 日に新居に入るので、翌日の 25 日午前中にインターネット光回線のモデムが届くように手配してもらったのですが、モデムの ID とパスワードは郵送で別発送するというものでした。でもそれが 22 日に来ていたようで、まだ表札も何もないので配達員が配達することが出来ず、最寄りの郵便局に持って帰りました。という置手紙が、ありました。こちらはその時点ではなんの郵便が来ていたのかはもちろん分からないので、困惑するのみでしたが、次の日になるとおそらくそれではないかと推測できたので、光回線の担当部署へ電話すると、そこは長野の電話受付で担当は函館だとか言われて、さんざん待たされた挙句に折り返し電話しますとのこと、更に ID とパスワードの書類の発送は、プロバイダーに任せている云々という発言。長野とか函館とかプロバイダーとか、総て向こうの都合でこちらは関係なく、しかもこちらはそれが配達されなかった郵便物であるかどうかまづ知りたけだけだったのに、責任転嫁。謝罪の言葉すらない。録音しているというから、ちゃんと資料として残して改善してくれと言ったが、まあまた同じことすると思うし、同じ目に会っている人が他にもたくさんいるでしょう。大企業は、下請けに丸投げして仕事もせず、責任を取らないようにする仕組みだけ作る、もうやめませんか！顧客のことを考えてなんかいない。出来ない仕組みなら、無駄だからやらなければいい。モデムと一緒に ID とパスワードも送ればいいでしょうと聞くと、内部の決まりなのという。勝手にやってくれ、基本中の基本もできていないのに、内部の決まりは守るのか？まあ、届かなかった郵便物が何か分かったので、いいです。という。この電話で ID とパスワードお教えすることもできますが、という。開いた口が塞がらない、それなら最初からそれを言え！すぐに次男に ID とパスワードを LINE で伝え、無事ネット開通。そして郵便物は、その日の夕方に到着したとき。丁度 1 年前、次男が寮に入るときに布団の配達を期日時間指定で頼んだ佐川急便が待てど暮らせど来ず、その挙句に明日の配送になりますと言われてブチ切れたことを思い出す。まあ、これでは怒りたくもなる。しかし、笑って済ませられるような人間に自分もなりたいと思う。情けは人のためならず。

英樹



配り

第 238 便

勝亦製材駿河鉄骨塾

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 御殿場市中山518番地

孫涼平成人式をむかえたり

戦なき世を尊く思う

枯小野を四囲にめぐらせ軒低き

菫は沈む駿河療養所

林なをみ

勝亦りつ子





令和



新元号が決まりましたね。「令和」だそうです。新しい時代の幕開けはなんとも清々しいものですね。

5/1 から令和が始まるそうなので、あと一か月は平成年代を過ごすことになるのですね。平成元年生まれがもう31歳、5月以降に生まれる子は新元号、令和元年生まれです。

昭和生まれの僕としては年号を二つまたぐ事になるのですよね。昭和の二つ前だと明治。子供の頃すでに明治生まれは身近なところにはいませんでしたが、明治生まれ、明治維新の頃だなぁ、と、えらく昔の歴史の中の出来事のように思いました。今生まれた子供からは、昭和生まれ、ああ、大きな戦争のあった頃ですねえ、えらい昔ですね、授業で習いましたよ～、なんて思われてしまうのでしょうか・・・

ともあれ。新年度、新元号になりますが、変わらずのご愛顧よろしく申し上げます。そうそう、新しいカメラですがすこぶるイイ感じです。年号とともに私の写真も新しくなりますよ～。

柳田 敏和



大志って？

古今東西、歴史に刻まれた名言は、数々あれど、中でも若人の旅立ちのこの時節に就ての『青年よ、大志を抱け』は著名です。この著名な言葉の受け取り様が、年令を重ねた今の私と嘗つての私とでは変わってきているのを感じます。『大志』の中身にです。大志とは、どのような事なのでしょう。世に言う大きな立派な功績を残すことなのでしょう。嘗つての私にとって、若人を世に送り出すには、この文言は最高！と思いました。ところが、今はむしろ『青年よ、志を抱け！』としたらどうかと思うのです。大志というからハードルが高いのです。乗り越え難く、ストレスです。道を外れる他に術が無くなります。他人にはどんなにささやかに見える志でもそれが真つ当ならば良いのです。



栗原



アンテナに引っかかった言葉

「これから、どんなふうに年齢を重ねたいですか？」
山登りに例えるとね、車で頂上を目指すのじゃなくて、自分の足で登りたいと思うんです。時間もかかるし汗もかく、筋肉痛になるかもしれない。でも、そんなふうに年齢を重ねていきたいなあって。自力で登ると何より想像力が鍛えられると思うんですよね。起こりうる事柄を想像して前もって準備をするから、余裕が生まれる。思わぬところで痛さや辛さを身をもって味わうから他人の気持ちを想像して優しさや慈しみが生まれる。
その経験が人としての奥行きやタフさを創るんじゃないかって。もちろん老化が怖くないわけじゃないけど。そういう美しさはきちんと年齢を重ねないとできあがらない気がするんです。『簡単』や『便利』がいつも簡単に手に入る時代。でもそれが当たり前になりすぎて、喜怒哀楽のコントラストが弱まり、いつのまにか感謝も感動も薄らいってしまったのじゃないでしょうか？だからできるだけ自力で、『面倒』と『不便』も悪く無いんじゃない？そう思える大人が今だから格好いい気がするのです。
アンテナ張っていると時々ドッキ！とする言葉に出逢います。上書き保存してしまいましたが、身になればいつも私の感性のアンテナ回しています。



ねがみ



人はどんな曲がり角で
どんな人に出逢うか判りません
しかし歩いているのは
自分以外の何者でも
無いのです
しっかり歩きましょう

片山 豊

